

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500070		
法人名	伊藤建友株式会社		
事業所名	グループホームしんざんの里		
所在地	秋田県由利本荘市石脇字山の神11番地714		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	平成30年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との関係を断ち切らないよう、住み慣れた我が家や地域に出かけられるよう支援している。生活リハビリだけでなく本人の出来る事を最大限活用できるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食堂兼居間の大きな窓から、キジや時には、カモシカも見られる自然環境豊かな所に事業所があります。家庭的な施設を目指し、日常的に食事の下拵え、調理、盛りつけ、下善などを職員と一緒にしています。定期的(週一回)に訪問販売があり、自己管理している小銭でパンやお菓子を買うのが、利用者の楽しみとなっています。前年度からの目標であった救急救命の研修受講はじめ、心身両面での介護技術、調理、感染症予防など各分野の外部研修が計画的に実施され、職員のサービスの質向上に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示し、確認できるようにしており、実践出来る様問題点などがあれば共有している	法人の理念を基に、事業所の理念をつくり、更に利用者の現状等を踏まえ、年度の目標を掲げ日々の中で確認しながら、実践に繋がっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事やボランティアにて交流行っている	町内会の総会に出席し、事業所の納涼祭には多くの地域住民が参加してくれました。避難訓練では参加のお願いとして、事前に文書を配布するなど、地域住民の一員として交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	積極的に情報発信はあまり出来ていないが、会議を通して必要なことは報告している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方に参加して頂き取り組み状況等報告している	委員の多くは事業所の状況を良く理解しており、意見交換の結果をサービス向上に繋がっています。ボランティア代表も委員として参加しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	頻繁に連絡を取れてはいないが、分からない事や協力して貰いたい時には必要に応じて連絡を取り合っている	制度上のことや、事業所の困難事例などで相談することもあり、協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会にて検討し周知している	身体拘束・虐待防止委員会が主になり、定例会などで確認し合いながら、拘束のないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や委員会が主となり、勉強会や検討会を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、以前の研修にて学ぶ機会があったものの、自設では活用している利用者がおらず実際関わる機会が無い為、まだ理解出来てない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日以前より話し合いを設け不安点の確認をしたりし理解してもらえるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を表せる窓口としていつでも対応できるようにし、必要に応じて苦情・要望対策委員会を設け運営に反映出来るよう努めている	利用料持参などに気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに努め、意見や要望などは記録し、運営に反映させるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などで必要に応じて機会を設けている	職員同志日常的に気軽に話し合える環境にあり、設備関係や環境整備などで改善事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力や実績を認めてもらい、向上心を持てるよう環境も整備されてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれが研修に参加する機会を設けスキルアップにつながるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や地域ケア会議への参加により交流の場を設けサービスの質の向上につながる取り組みをしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りに努め、傾聴する事で安心して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の説明時、ご家族の意見や要望等を話せるような機会を設けている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は行ってもらい、なおかつ役割を持つことにより日々の暮らしの中で活力となる為、日常生活において共に行うよう努めている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などで、近況を報告したり、状況に応じて電話連絡行なっている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来所はそれ程多くないが、ご家族の要望が無い限りは面会制限しておらず、必要に応じて馴染みの場所へも出かけている	外泊・外出・お墓参り・法要など家族の協力もあり、また 親戚や同じ町内会の知人などの面会もあり、これまでの関係が途切れないように支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に作業する場やレクリエーション活動等で孤立しないよう職員が間に入り場を設けるよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時も相談や支援ににて協力するむねを伝えており、ご家族からの要望に必要に応じて対応していくよう伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人はもちろん、ご家族からの情報も得ながら暮らし方の要望や希望を聞き、カンファレンスや会議などで情報共有に努めている	把握困難な利用者からは、日常の関わりの中で状態を見ながら、さりげなく聞くようにしています。情報は記録し、ミーティングなどで共有し支援しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての生活歴は把握することは難しいが、本人やご家族からの情報にて1人1人を考慮しながらサービス提供に努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や1人1人の日常における過ごし方の気づきを申し送りや記録に残し常に職員間で情報共有し対応している		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、職員間でケアについて話し合う場を設け、現状に即した介護計画を作成し本人やご家族にも報告し対応している	担当職員の意見を聞き、カンファレンスで検討され、利用者・家族の意見なども取り入れ、本人本位の介護計画が作成されています。記録の記載方法については随時勉強会も実施しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化や本人の訴え、体調の変化などの気づきや個別ケアでの対応を記録に残し職員間で情報共有に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への散歩や買物、理髪店等利用しドライブに出かけたりする機会を設けられるよう支援しているが、季節によっては積極的に行えてないこともある		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前から通院していた医療機関はなるべく変えることなく対応しているが、必要に応じて適切な医療を受けられるよう、本人や常にご家族と話し合い支援している	通院介助は主に職員が行っていますが、家族の協力もあります。受診時の情報・処方薬の変更などは、記録や申し送りでも共有されています。利用者全員が往診による歯科治療を行っています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない為、通院時や往診時には現状報告し、変化のある場合には、報告し適切な受診を受けられるよう努めている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時共に利用者様の情報交換し状態の確認などの関係作りに努めている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていないことを事前に伝えたくて、事業所にて出来る事の内容を伝え、体調の変化にて入院となる可能性もある事を、話し了解を得ている	主治医・職員・家族と連携しながら、終末ケアに取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受ける機会を設け、自設に持ちかえり、内部研修にて学んでいるが、更に講習を受ける機会を増やし実践力を身に付けていきたい		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の合同避難訓練にて避難方法を身に付けるようにしており、近隣の方にも参加してもらえるように事前に連絡や案内文にて呼びかけしている	防災・防火委員会が訓練内容などを企画し、火災・地震・水害想定訓練を、消防署員・同敷地内の事業所の協力も得て実施されています。居室・廊下随所にタッチライトが設置され、停電に備えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉遣いに気を付けたり、過度なスキンシップなどをしないよう気を付けると共に、尊厳を守る支援するよう努めている。	馴れ合いによる話し方や語調に注意し、定例会などで確認しながら、支援しています。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表したり、または表せるよう選択時には声掛けし、本人の意思を確認し自己決定できるよう働きかけるよう努めている			
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度制約せざる負えない場合もあり、職員側の都合に合わせてしまっている事になるかもしれないが、それ以外は1人1人のペースで過ごせていると思われる			
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時など、衣類等を選ぶ際には本人と共に選んだり、声をかけたりし決定してもらえるよう声掛けしている			
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が好きな食材や料理を献立に取り入れ下ごしらえや盛り付け等をしてもらい、職員と共にやっている。	調査時には、ホットプレートで焼きそばを利用者と職員が和気あいあいの中でつくっていました。 きりたんぼ・だまこ餅・干し柿作りなど、一日一日の活動のひとつとなり、生き生きと過ごせる源ともなっています。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分は記録に残し状況に応じ情報共有行っている			
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行えてないが、入床前は声掛けにて行えてる、不十分な場合には介助し清潔保持に努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンも考慮しながら、トイレの声掛けや排泄介助を行っている。検討の結果にてリハビリパンツを使用している方もいる	一人ひとりの状態に適した用品の使用、失禁の多い利用者については専門医のアドバイスをいただく事もあります。状態を随時職員間で話し合いながら、自立に向けた支援を行っています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	習慣的に便秘傾向のある場合には医師に相談し状況の変化もふまえ解消できるよう処方薬の利用にて支援しており、個人でも食品や飲料等購入し調整している		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けし、先ずは本人の意思確認してから入浴してもらっており、声掛けの工夫もしている。	入浴直前には脱衣室を暖かくするなど、温度調整をおこなっています。可能な限り希望入浴も実施、週2～3回入浴されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせているが、状況に応じ離床が必要と思われる時には声掛けにて対応している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容は、理解するよう努めており、変化があった場合には、必ず全職員が周知するよう呼びかけ対応している		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を生かし、日常生活の中で役割を持ち外出や季節行事に参加し楽しめるように支援するよう努めている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車でのドライブなど企画したり、出来るだけ希望にそえるよう支援している	日常的な散歩、希望外出(買い物・自宅周辺など)や季節々には少し遠出のドライブなど、出来るだけ戸外に出る機会をつくっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族側の意向も取り入れ主に金銭管理は自設にて対応しているが、本人が少額を持っている場合もある為、外出時などその中から支払いをするときもある		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻繁ではないが希望があった時には電話をかけてもらったり、ご家族に連絡が取れるよう支援している		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるよう適度な飾り付けや不快を感じるような匂いがしないよう配慮し、快適な温度設定を心掛けるよう努めている。	事業所内は隅々まで清掃が行き届いています。食堂を兼ねたホールの大きなガラス窓越しには、竹林・雑木林があり、四季折々の風景を眺めることが出来、カモシカや小動物も見られることがあります。事業所内には広い談話室があり、家族などの面会時に利用されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのそばに本棚を置き、個々に居心地の良い場所で過ごせるよう設置場を時折検討し工夫している。居室で過ごしたい方にも自由にしてもらっている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の全ての家具が使い慣れたものではないが、入居時に持ち込んでよい旨を伝え、本人とご家族とで相談し居心地よく過ごせるよう設置している	ペットの枕元・居室入り口付近にはタッチライトが取り付けられており、停電に備えています。ペットや家具類の位置は本人の状態や意向を聞きながらレイアウトしています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共同空間は表示し手摺りの設置を行い安全の中に自立した生活を送れるよう支援している		